

《ミッション2》 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる

KPI:将来の夢や目標を持っているこどもの割合

<R5実績値> 小学生:81.1% 中学生:66.8%

	R6	R7	R8	R9	R10
目標	小学生:81.9% 中学生:67.5%	小学生:82.7% 中学生:68.2%	小学生:84.0% 中学生:68.5%	小学生:84.5% 中学生:69.0%	小学生:85.0% 中学生:70.0% (政令市1位の水準を目指す)
実績	小学生:82.0% 中学生:65.7%	—	—	—	—
評価 〔達成率〕	概ね順調 (小学生:100.1% 中学生:97.3%)	—	—	—	—

(1)こどもを「社会の構成員」として尊重し、こどもの意見を聴いて学校運営に活かす

①「こどもまんなか」の教育施策の推進

ミッション1(1)①に記載 P.9

(2)こどもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

a 北九州ステップアップメソッド(コグトレ)の推進

・コグトレ共同開発者の高知健康科学大学 宮口学長との研修会や城野小学校でのコグトレ実践公開授業を3回、学校力向上支援訪問(コグトレ)を2回実施した。

b 学校部活動の振興

学校部活動の振興を図るため、以下の事業を実施。

<部活動外部講師の配置>

・顧問教員に代わって専門的な部活動の指導を実施 - 154名承認(運動部:114名 文化部:40名)

<部活動指導員の配置>

・単独での部活動指導や学校外での活動(練習試合等)における引率を実施 - 29名

<部活動指導のNPO委託>

・部活動指導員の活用として、地域団体に部活動指導を委託

<中体連、中文連、小体連、小文連への運営費補助・児童生徒派遣補助>

・中体連等が主催する大会等の運営費や児童生徒が九州大会以上の大会等に出場する際の交通費・宿泊費の一部を補助

<連携部活動・合同部活動>

・単独では十分な活動が行えない学校が合同で活動 - 28校

・在籍校に希望する部活動がない場合、近隣の学校の部活動に参加可能 - 83名

学校部活動



取組みと成果(令和6年度)

c 多様な体験の場の提供

- ・平日の放課後の学校というフィールドを活用し、自由に探究心や研究心を開花させられるような「多様な体験の場」を提供する放課後エデュテイメント事業をモデル校6校で実施した。
- ・夏休みに、文化施設をはじめとする様々な施設に無料または一部割引で入場できる等の特典が受けられる「こども文化パスポート」を3歳以上中学生以下のこどもに配布した。

<実績>

参加自治体数(施設数)	17自治体(78施設)
利用人数(利用率)	75,119人(48.9%)

放課後
エデュテイメント事業



d 小規模校特別転入学制度の実施

- ・自然環境に恵まれた郊外の小規模な小学校(小規模特認校)に、通学区域を越えて児童が転入学できる制度を実施し、特色ある教育活動(のびのびカリキュラム)を展開した。

<令和6年度転入学児童数> 計55名

②アントレプレナーシップ教育による人材育成

a 未来の起業家を育成

- ・未来の起業家を育成するため、小中学生を対象に基本的な知識や創造力、問題解決能力を育む「アントレプレナーシップ教育(未来のスタートアップ育成事業)」を小学校2校、中学校1校で実践した。

<アンケート結果>「将来への選択肢が広がった」: 93.0% 「起業してみたい」: 73.1%

- ・「北九州の企業人による小学校応援団」では、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者(PTA)向けの研修等、親学推進プロジェクトを実施した。

<出前授業> 利用申込: 56校 実施: 316回

(3)こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.17-18

②特色ある教育環境の整備(市立高校)

a 「イチリツ・プロジェクト」の実施

- ・探究的な学びを軸に人材育成を目指すための学校設定科目「イチリツ・プロジェクト」を実施した。北九州市立大学地域創生学群や福岡県中小企業家同友会と連携し、より深い学びにつながる在り方や、キャリア教育(インタビューシップ)を実施した。
- ・情報ビジネス科の募集を停止し、令和7年度入試から未来共創科に一本化した。



未来共創科

(4)社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.17-18

②市民の学びを支える図書館の機能強化

a 学校図書館職員の配置

- ・学校教育における読書活動を推進するため、全中学校区及び特別支援学校に学校図書館職員を配置するとともに、スクールヘルパー(ブックヘルパー)と協力して、学校図書館における読書環境の充実を図った。
- ・新しいカリキュラムに応じた小学校6学年分のブックリストを完成させた。

b 中央図書館のリニューアル

- ・多世代の居場所づくりなど、多様なニーズに応え、安全・快適で誰もが利用しやすい図書館を目指すため、中央図書館の開館50周年に合わせ、中央図書館のエントランスのリニューアルに着手した。

c 北九州市立図書館基本計画の策定

- ・今後の図書館の在り方と目標達成のための具体的施策を示した「北九州市立図書館基本計画」を策定した。

(1)こどもを「社会の構成員」として尊重し、こどもの意見を聴いて学校運営に活かす

①「こどもまんなか」の教育施策の推進

ミッション1(1)①に記載 P.12

(2)こどもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

a 北九州ステップアップメソッド(コグトレ)の推進

・振り返りシートの平均値は3.9（最高値は4.0）と高い結果となったため、令和7年度も、宮口学長との連携を継続し、コグトレの理論と実践に基づいた研修会の実施、定期的なコグトレ活用推進研究部会の開催を通して、研究部会員の横のつながりを強化するとともに、各学校の実態に応じた情報提供に繋げる。

b 学校部活動の振興

・令和6年度は、部活動の現状に「とても満足」、「おおむね満足」と回答した生徒の割合が84.3%と高い評価であったため、令和7年度も同様の事業を実施し、こどもたちの活動環境の整備や学習意欲の向上等を支援する。

c みらい探究プロジェクトの開始

・年間を通してのプログラム実施が難しく、単発のプログラム実施になっていたことや学校の敷地内での活動プログラム実施であったために、プログラム内容に制限があったことが課題であった。

・令和7年度は「みらい探究プロジェクト」を立ち上げ、こどもたちが「なりたい自分」「好きなこと・得意なこと」「興味・関心をひきつけるもの」に出会い、これからの生き方について主体的に考える機会につながる体験活動を提供していく。

d 文化・歴史・自然の体験

- ・こどもまんなかの視点で体験活動のあり方を再整理し、「たいけん・まなび充実大作戦」としてパッケージ化して情報発信することにより、実体験を通じた学習の機会と選択肢の充実を図る。
- ・こども文化パスポートのオンライン化により、事業の大幅な効率化を実現した。また、参加自治体が3市町増加し、事業規模も拡大した。令和7年度は、こどもたちの体験活動のさらなる充実を図るため、公共交通機関との連携やPR強化等に取り組む。

e 小規模校特別転入学制度の推進

- ・令和7年度は57名の転入学生を決定し、制度利用者を増加させることができた。今後も丁寧な制度説明と効果的なプロモーションを行い、次年度に向けてさらなる利用促進を図る。

②アントレプレナーシップ教育による人材育成

a 未来の起業家を育成

- ・「アントレプレナーシップ教育(未来へのスタートアップ育成事業)」については、アンケート結果が高評価であり、事業の効果が十分に得られたため、引き続き、起業家精神やビジネスマインドを育む取組みを推進していく。
- ・「北九州の企業人による小学校応援団」と連携を図り、企業がもつ人材や経営のノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修への講師派遣などに有効活用する。

(3)こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.20-21

②特色ある教育環境の整備(市立高校)

a 特色ある教育環境の整備

- ・大学教授や学生インターン等との交流によるロールモデルとの出会いや、インタビューを通じた地元企業との関係強化による市立高校の知名度向上等の成果があったため、令和7年度においても「産・官・学・民」と連携・協働しながら、より多様な学びの機会を提供していく。

(4)社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.20－21

②市民の学びを支える図書館の機能強化

a 読書活動の推進

・全中学校区及び特別支援学校に学校図書館職員を配置し、学校図書館における読書環境の充実を図ることができた。
令和7年度も「北九州市子ども読書の日」を設定し、期間内における取組みを推進する。

b 中央図書館のリニューアル

・エントランスのレイアウト変更や椅子の配置、本の展示の工夫を行ったことで、開放的で本や雑誌を気軽に手に取り、くつろげる空間となったため、
令和7年度もソファやブックトラックの配置の工夫やエントランス横のトイレ改修、入口付近の整理を行うなど、さらに本に親しみ、くつろげる空間とする。

中央図書館



c 北九州市立図書館基本計画の推進

・「北九州市立図書館基本計画」の計画期間は、令和7年度から令和22年度の16年の長いスパンとしているため、目指す姿の着実な実現に向けて、年度ごとの目標や具体的事業計画を示し、成果指標についても、年度ごとの目標を定め、点検・評価、取組みの改善に生かす。
・令和7年度は、市民の図書館に対するイメージ向上のため、図書館の新たな取組みを広く周知するなどPRに力を入れる。

参考指標

	R5(基準値)	R6(実績)	R10(目標)
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答したこどもの割合	小学生:95.7% 中学生:94.4%	小学生:96.2% 中学生:94.9%	小学生:95.0% 中学生:95.0%
「挑戦したい気持ちはあるが、失敗が怖い(恥ずかしい)ので挑戦したくない」と回答したこどもの割合	小学生:24.1% 中学生:23.1%	※1	小学生:15%以下 中学生:15%以下
「5年前のこどもと比較して、困難にくじけず対応する力が劣っている」と回答した教職員の割合	37.0%	※1	20%以下
「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した学校の割合	小学生:84.5% 中学生:98.2% (R4 年度)	※2	小学生:90% 中学生:100%
「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と回答したこどもの割合【市立高校】	77.8%	73.6%	80%
図書館の利用者満足度 (※中学生以下) ①「読みたい本の有無」 ②「調べ物に役立つか」 ③「職員の知識・説明」	①93.2% ②93.4% ③95.7% (R4 年度)	①92.2% ②96.4% ③99.2%	各項目で 90%以上

※1:「こどもまんなか教育プラン」策定のために実施した、全校アンケートでの調査項目。

令和6年度はアンケートを未実施であり、今後アンケートを定期的に実施予定。

※2:「全国学力・学習状況調査」の調査項目から除外されたため、令和6年度はデータなし。